日本の成人式



毎年、１月の第２月曜日は「成人の日」で、国民の祝日です。日本では明治時代から最近まで、法律上、二十歳が成人の年齢でしたが、2022 年（令和 4 年）から、成人年齢が 18 歳に引き下げられました。成人の日には、二十歳になった人を祝う「成人式」が各地で行われていましたが、成人年齢が 18 歳になった今でも、成人式は「二十歳のつどい」など名前を変えて、これまでと同様、二十歳になった人を祝う式典として、行われています*。

日本では元々、成人式は貴族社会や武家社会で行われていました。当時は、一般に 15歳から 18歳になると、着る物や髪型を変えて、大人の仲間入りをしたことを表していました。

成人になると、それまで子どもとして扱われていた個人が、一人前として社会から認められ、独立した社会人としての地位が与えられます。現在、日本では 18 歳になると、選挙権を持つことができます。結婚することもできるようになります（ただし、たばこや飲酒が許可されるのは、現在でも二十歳からです）。一方、18 歳からは、成人として、税金を払う義務が生じたり、犯罪を犯したときの刑罰が厳しくなったりするなど、社会に対して、大人としての責任を持たなければならなくなります。

*ごく一部の自治体では、18 歳で成人式を行うところもあります。

Copyright The Japan Foundation